

ICOMOS

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
CONSEIL INTERNATIONAL DES MONUMENTS ET DES SITES
CONSEJO INTERNACIONAL DE MONUMENTOS Y SITIOS
МЕЖДУНАРОДНЫЙ СОВЕТ ПО ВОПРОСАМ ПАМЯТНИКОВ И ДОСТОПРИМЕЧАТЕЛЬНЫХ МЕСТ

パリ、2023 年 9 月 7 日

内閣総理大臣	岸田 文雄 様
国土交通大臣	斉藤 鉄夫 様
環境大臣	西村 明宏 様
文部科学大臣	永岡 桂子 様
文化庁長官	都倉 俊一 様
東京都知事	小池百合子 様
東京都議会議長	三宅 茂樹 様
東京都教育委員会教育長	浜 佳葉子 様
港区長	武井 雅明 様
港区議会議長	鈴木たかや 様
新宿区長	吉住 健一 様
新宿区議会議長	ひやま真一 様
渋谷区長	長谷部 健 様
渋谷区議会議長	丸山 高司 様
三井不動産株式会社	
代表取締役社長	植田 俊 様
宗教法人明治神宮	
宮司	九條 道成 様
伊藤忠商事株式会社	
代表取締役社長	石井 敬太 様
独立行政法人日本スポーツ振興センター	
理事長	芦立 訓 様

ヘリテージ・アラート

東京・神宮外苑の都市林に差し迫った脅威。

再開発により 3.4 ヘクタールの公園と約 3,000 本の文化的資産としての樹木が失われる

拝啓

イコモス（国際記念物遺跡会議）は、世界の文化遺産保護に携わる専門家を代表する組織であり、130 カ国から 10,500 人以上の会員を擁している。イコモスは、文化遺産の保存と保護を推進し、1972 年に定められたユネスコ世界遺産条約の諮問機関でもある。

東京は人口 1,400 万人を擁する世界有数の大都市であり、イコモスは、東京が文化遺産の保護に特段の努力を払ってこられたことに敬意を表する。東京の中心には、江戸城を継承する皇居の森があり、17 世紀以来、手厚く保存されてきた庭園群と、近代以降に生み出されてきた公園群は、東京の誇りとなっている。なかでも、皇居の森から、内濠、外濠を経て、赤坂御所、神宮外苑、神宮外苑、新宿御苑へと続くエリアは、江戸期より継承されてきた庭園群が手厚く保存されており、庭園都市・東京の中核を構成している優れた文化遺産である。また、1920 年代の近代化の中で、神宮内苑と外苑を結ぶ公園道路が整備され、近代的パークシステムが、都市の骨格的構造として、最初に導入された地でもある。

神宮外苑は、この中核に位置する公園で、神宮内苑と対をなすものとして造られ、世界の公園史上でも類を見ないユニークな構造を有している。神宮内苑は「永遠の森」を目指し、それに対して、神宮外苑は「人々のための森」を目指して創り出された。神宮外苑は、東京の「庭園都市パークシステム」の中核を構成しており、世界の都市公園史上でも類を見ない、市民により創り出された優れた公園である。

しかし現在、イコモスは、神宮外苑が都市再開発によって約 3,000 本の樹木が破壊され、開放的な公園空間が失われる危機に直面していることを危惧している。イコモスには、この再開発事業に対する抗議の声が多数寄せられており、記事も掲載されている。その中には、貴国の国内委員会である日本イコモスからの書簡、日本の国会議員連盟、国際影響評価学会日本支部からの書簡、世界的に著名な音楽家や小説家からの書簡も含まれている。また、新聞などのメディアには 300 以上の記事が掲載され、21 万 8,000 人以上の署名が寄せられている。

以上を踏まえて、イコモスは、現在進行中の都市再開発によって神宮外苑に差し迫った不可逆的な脅威がもたらされていることに対し、世界的な認識を広めるため、イコモスの最も重要な懸念の表明である、世界的なヘリテージ・アラートを発するものである。

ICOMOS ジャパンは、2022 年 3 月、公園まちづくり制度と地区計画の決定に伴い、再開発促進区が導入されたことにより、重大な問題が生じたことを示した。再開発計画では、都市計画明治公園が 3.4 ha 削減され、超高層複合ビルの建設予定地となった。また、再開発促進区の導入により、風致地区の高さ制限 15m から緩和され、190m、185m、80m の 3 つの高

層ビルの建設が可能となった。この計画では、ラグビー場と野球場の建て替えと移転も認められた。全体で 3,000 本以上の樹木が破壊され、そのうち 500 本以上が樹齢 100 年以上、さらに 500 本が樹齢 50 年以上と推定される。イコモスは、これを文化遺産の不可逆的な破壊とみなし、気候変動への世界的な対応として、都市のオープンスペースと都市林を維持することの重要性が高く認識されている今日、オープンスペースと成熟した遺産である樹木の容認しがたい損失とみなすものである。

オープンスペースの直接的な損失と成熟した遺産である樹木の破壊に加え、神宮球場の建設は、敷地の南東に沿ったイチョウ並木の健全性に決定的な影響を与えると考えられる。イチョウの幹からわずか 6 メートルしか離れていない場所に、スタジアムの建設のために深さ 40 メートルの杭を打ち込むことで、工事は土壌の水位に影響を与え、イチョウに更なるストレスを与えると想定される。さらに、スタジアムの建設は、神宮外苑のシンボルであるイチョウの日照にも影響を与える。これは、事業者と東京都が表明した "イチョウ並木の永久保存" という公約に反するものである。

イコモスは、市民や利害関係者と協議することなく、世界的に有名な公園に高層ビルを建設することに、強く、警告を発する。

イコモスは、三井不動産株式会社、明治神宮、伊藤忠商事株式会社、日本スポーツ振興センター（開発責任者）に対し、都市再開発事業を直ちに中止し、神宮外苑を後世に残すよう求める。

イコモスは、都市再開発事業を認可した東京都に対し、都市計画決定の見直しを要請する。この再開発は、都市計画法で長年定められてきた高さ制限に適合していない。

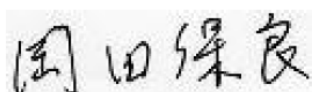
イコモスはさらに、多くの誤りや非科学的方法論があると指摘されている環境アセスメントに関し、都環境アセスメント条例に基づく社会的責任を果たし、見直しが行われることを要求する。

イコモスは、こうした法的手続きが、国民にほとんど、あるいは全く情報が提供されないまま実施されたことを憂慮する。私たちは、民主主義の原則が尊重され、神宮外苑の将来に関する情報が広く一般に周知されることを要望する。神宮外苑の将来について、多様な利害関係者が議論に参加できる場を設けるべきである。

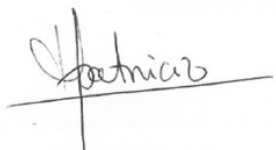
また、イコモスは、関係省庁、地方自治体およびその関係部局に対し、この文化遺産が確実に保存されるよう最大限の努力をするよう要請するとともに、神宮外苑の持続可能な未来

が確保されるよう、日本イコモスおよびイコモスの文化的景観に関する国際学術委員会、ならびにその他の専門家メンバーが持つ専門的知識をフルに活用して支援することを申し入れる。


敬具



Yasuyoshi Okada
President of ICOMOS Japan



Teresa Patricio
President of ICOMOS



Elizabeth Brabec
President of ISCCL,
ICOMOS – IFLA
International Scientific
Committee on Cultural
Landscapes